

# 地域の活性化を進める奈良県斑鳩町の取り組み

奈良県生駒郡斑鳩町は、世界遺産法隆寺に代表される大きな観光資源を持つ奈良県有数の観光地であるが、近年、観光客数は減少の一途をたどっている。また、旧来からの建築規制が妨げとなり飲食店や土産物店、宿泊施設などの新たな出店はこれまで難しい状況にあった。

こういったなか、斑鳩町では官民が協力して、これまでのような通過型観光ではなく、時間消費型の観光を推進。各種イベントの実施など斑鳩町内での滞在時間を伸ばすための取り組みが進み始めた。合わせて斑鳩町役場は条例を制定し、これまでの厳しい建築規制を一部緩和した。本稿では、こういった斑鳩町における観光を中心とした地域の活性化の取り組みを概観していく。

## I 斑鳩町の概要と現状

### 1. 斑鳩町の概要

斑鳩町は奈良盆地の北西部から矢田丘陵の南端に位置し、南に大和川、東に富雄川、西に竜田川が流れ、水と緑の豊かな自然が町の風景にとけ込んでいる。歴史的には、飛鳥時代に聖徳太子が斑鳩宮を営み、当時創建された法隆寺、法起寺、法輪寺、中宮寺が現在に伝わり、平成5年12月には「法隆寺地域の仏教建造物」として法隆寺と法起寺が日本で最初に世界遺産に登録されている。

このような世界に誇れる文化遺産を大切に守りながら、ともに生き、ともに育むまち、歴史と文化が暮らしの中に息づくまちの形成が進められている。

(注) 本稿では、町全体を指す場合は「斑鳩町」、行政である斑鳩町を指す場合は「斑鳩町役場」と表す。

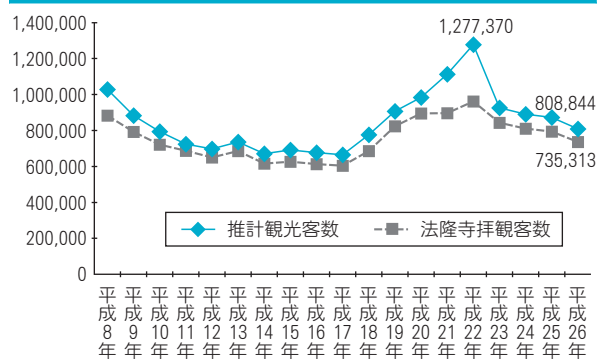
### 2. 斑鳩町の観光の現状

斑鳩町が、今後地域を活性化させていくためには、法隆寺等の大きな観光資源に多くを依存しながらも、法隆寺以外の観光スポットへの回遊を促し、斑鳩町での滞在時間を伸ばすことが必要である。そのためには、「法隆寺以外の観光資源の魅力を高める」ことや「新たな観光資源を作る」ことが求められる。

斑鳩町の観光統計データを見ると、観光客の多く（約9割）が法隆寺を訪れている。言い換えると、法隆寺の拝観が観光のメインであり、法隆寺だけ拝観して帰ってしまういわゆる「点」の観光が主流となっていた。また、まちの中に観光客が立ち寄りたくなる飲食店や土産物屋、旅館等が十分ではなかったこともその要因のひとつである。

観光客数の推移をみると、直近の平成26年は809千人で、平城遷都1300年祭が開催された平成22年128万人をピークにして減少傾向にある。

(A) 斑鳩町観光客数および法隆寺拝観客数の推移



(出所：斑鳩町)

### 3. 条例制定へ

こういった状況を変え、地域を回遊する観光へと転換するため、斑鳩町役場は総合計画や都市計画マスタープランに観光まちづくりを進める方針を定めるとともに、「歴史的風致維持向上計画（歴史まちづくり計画）」を立案。平成26年2月、

奈良県下の市町村で初めて国の認定を受けるなど、まちあるき観光に向けての取り組みを強化してきた。特に、法隆寺周辺の地域では、民間レベルでもまちあるき観光の拠点づくりにむけた機運が高まってきた。

これを踏まえ斑鳩町役場は、「まちあるきの観光拠点づくりを制度面から後押しし、まちあるき観光の実現を図る」ために、平成26年10月1日、『法隆寺周辺地区特別用途地区』を指定して建築制限を緩和した。対象となったのは法隆寺周辺の24.9haで、この緩和によって、物品販売店舗や飲食店、自家販売のための食品製造業は建築床面積の上限が50㎡から250㎡まで引き上げられた。また、これまで立地不可能だったホテル・旅館は、同床面積が1,500㎡までのものは建築が可能となった。ただし、高さ制限は現状の10mを維持するため、建築可能な建物は2階までとなる。

当該エリアではこの動きを受け、次章「Ⅱ 町内での新規出店の動き」に示すようなカフェなど新たな規制の範囲内で飲食店等の新規出店が進んでいった。ただし、宿泊施設については役場担当課に多くの問い合わせがあったものの、現段階でそれ以上のステップに進んだ案件はないという。

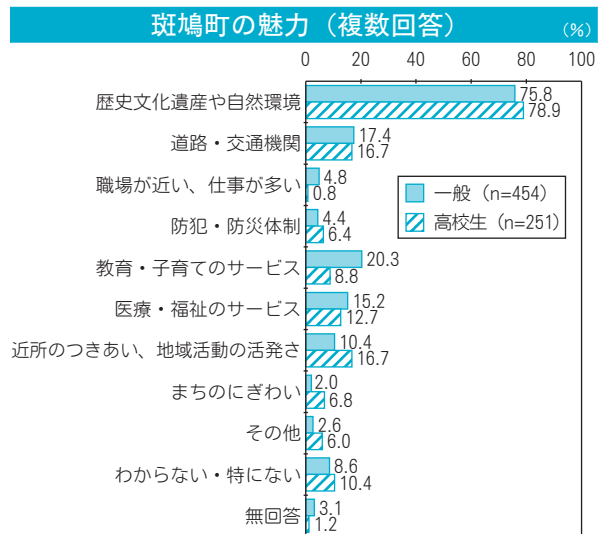
#### 4. 斑鳩町アンケート調査結果

斑鳩町役場は、平成27年8月、町内在住の18歳以上65歳未満の人（以下、「一般」）と「高校生」を対象に「斑鳩町 まち・ひと・しごと創生に関するアンケート調査」（※）を実施した。その結果の一部を見てみよう。

（※）本アンケート調査は、斑鳩町の「人口ビジョン・総合戦略」の策定に向けて、町民を対象にまちづくりに対するニーズ等を把握し、計画策定の基礎資料とするために実施された。

##### （1）斑鳩町の魅力

「斑鳩町の魅力」と考えるものは「歴史文化遺産や自然環境」が「一般」（75.8%）、「高校生」（78.9%）とも最も多く、回答者の3/4以上を占めている。第2位は一般が「教育・子育てのサービス」（20.3%）、高校生は「道路・交通機関」（16.7%）であり、選択肢は異なるが、2位の割合は1位に比べて大きく低下している。なお、「歴史文化遺産や自然環境」（一般）は年齢、性別に関係なくトップで、特に「20～24歳」の層と50歳以上では80%を超えている（図表非掲載）。

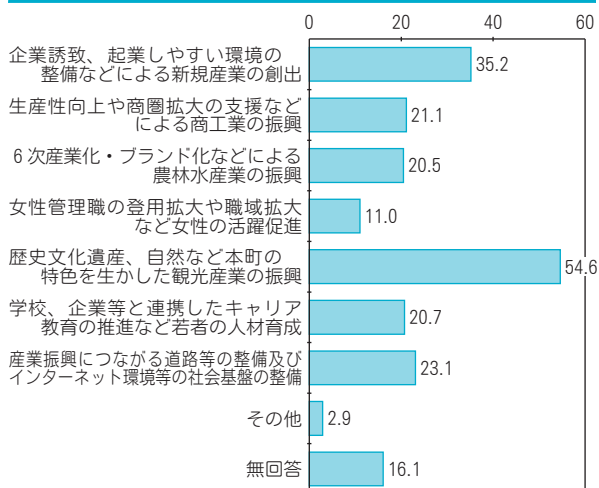


##### （2）地域経済の活性化のために取り組むべきこと

「地域経済の活性化のために取り組むべきこと」（一般）としては、「歴史文化遺産、自然など本町の特色を生かした観光産業の振興」が54.6%で最も多く、次いで「企業誘致、起業しやすい環境の整備などによる新規産業の創出」（35.2%）となっている。なお、図表の記載はないが、「歴史文化遺産、自然など本町の特色を生かした観光産業の振興」は20歳以上65歳未満の5歳刻み幅で、

どの年齢層でもトップだった。

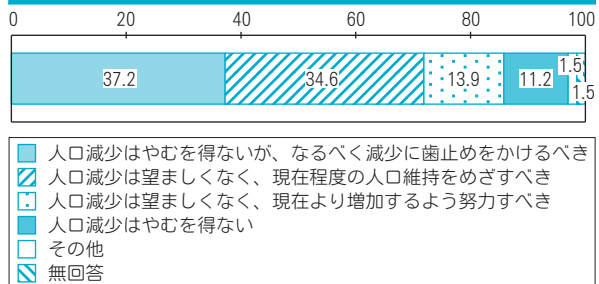
地域経済の活性化のために取り組むべきこと  
(一般、複数回答) (n=454) (%)



### (3) 人口減少について

今や全国共通の課題である人口減少について、「人口減少はやむを得ない」との回答は11.2%。一方、「人口減少は望ましくなく、現在より増加するよう努力すべき」(13.9%)、「人口減少は望ましくなく、現在程度の人口維持をめざすべき」(34.6%)、「人口減少はやむを得ないが、なるべく減少に歯止めをかけるべき」(37.2%)となり、人口減少に何らかのアクションを起こす必要があるとする回答は85.7% (13.9+34.6+37.2) にのぼっている。

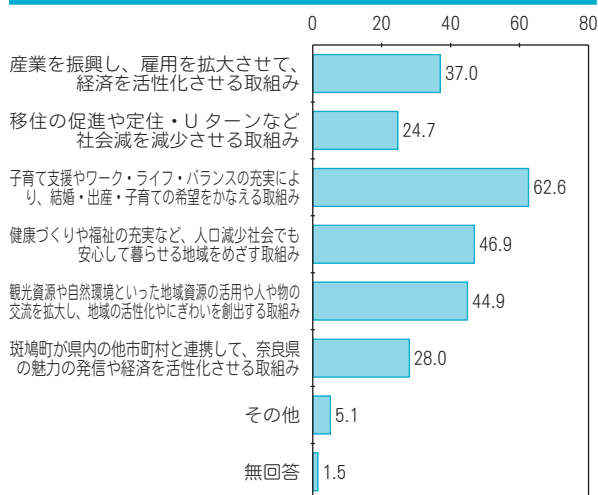
人口減少について (n=454) (%)



### (4) 人口減少に対して町が取り組むべきこと

人口減少に対して町が取り組むべきこととしては、「子育て支援やワーク・ライフ・バランスの充実により、結婚・出産・子育ての希望をかなえる取組み」がトップだが、「観光資源や自然環境といった地域資源の活用や人や物の交流を拡大し、地域の活性化やにぎわいを創出する取組み」が44.9%で比較的多く、回答中第3位だった。

人口減少に対して町が取り組むべきこと  
(一般、複数回答) (n=454) (%)



### (5) アンケート結果から

多くの住民が回答したように「斑鳩町の魅力」は、歴史文化遺産や自然環境である。したがって、地域の活性化やまちづくりには、こういった強みを最大限に生かすことが大切と考える。そのことは、「歴史文化遺産、自然など本町の特色を生かした観光産業の振興」が地域経済の活性化に取り組むべきことのトップであったことから明らかである。また、地域の活性化により交流人口の拡大が見込まれるが、交流人口の増加は地域産業の振興などを通じて地域住民の生活環境を改善するなどの効果があるため、人口減少の抑制策のひとつと考えられる。

## II 町内での新規出店の動き

前述した条例制定による規制緩和で斑鳩町内では観光関連産業を中心に新たな事業者の進出が続いている。こうした新規事業の成功は他地域での取り組みの参考となる。

本章では、規制緩和が実施された平成26年10月1日以降に当該エリアに新しく出店した5つの店舗を開業日順に紹介する。

### ■「和 CAFE 布穀園」(運営：斑鳩産業株式会社)

「まちあるき観光」の拠点として、平成26年11月29日に誕生したカフェで、新規出店の先駆的存在である。食材や内装、食器類にこだわり、可能な限り奈良県産、斑鳩町産を使う。不動産の管理・仲介やリフォームなどを手がける斑鳩産業株式会社が運営する。

開業後1年が経過したが、客足は順調で、リピーターも増えてきた。来店客の中には清算時に次のランチを予約して帰る人もいるという。(詳しくは、ナント経済月報2015年3月号 ビジネス情報 <http://www.nantoeri.or.jp/research/pdf/jouhou/201503.pdf> 参照)



外観(左上)、店内の様子(右上)、ランチの一例(左下)

- ・場 所：生駒郡斑鳩町法隆寺 2-2-35
- ・営業時間：10:00～16:00 (L.O.15:30)
- ・T E L：0745-44-8787
- ・定 休 日：火曜・水曜(祝日は営業)

### ■「CAFE・鍼灸 ZADAN」(代表者：川口 眞氏)

「CAFE・鍼灸 ZADAN」は、古民家をリノベーションしたカフェで、平成26年12月24日にオープンした。名前は「座談」に由来し、各地域、各国から人々が集い、一緒に座って談笑するようなカフェを目指している。また、「法隆寺以外の新たな観光スポットを作り、町を元気にしたい」という地元に住む者としての強い思いもあった。

オーナーは鍼灸師の川口真さんで、妻の彩さんとオーナーの姉尚子さんが食事・喫茶部門を担当。自家焙煎したコーヒーを提供するほか、美容師とのコラボレーションによる「ヘアメイク&コーヒーの入れ方」のワークショップを行うなど、女性の発想による企画が特徴的だ。なお、鍼灸/マッサージは土・日・祝日のみの営業(完全予約制)。



外観(左上)、店内の様子(右上、左下)

- ・場 所：生駒郡斑鳩町法隆寺 2-3-16
- ・営業時間：9:00～17:00(金曜のみ16:00まで)
- ・T E L：0745-74-5797
- ・定 休 日：木曜

■「喫茶 若大将」 (代表者：堤 <sup>つつみ</sup> 庸 <sup>のぶ</sup>氏)

代表者の父である堤 <sup>やすとし</sup> 保敏さんは、以前、現在と異なる場所でコーヒーショップを開業していたが、諸事情により一時中断。営業再開の機会をうかがい、「70歳になったら」と下準備に取り掛かった頃、多くの知人、友人から再開を求める声が大きくなってきた。そこで、当初より時期を早めて開店することを決め、娘の庸さんが代表者となり平成27年4月6日に「喫茶 若大将」がオープンした。

若大将は庸さんの姉 <sup>あや</sup> 彩さんが経営するガーデニングショップ「オレンジの庭」の中にあり、花を見ながらくつろいで癒しを得ることができる。開業以来、固定客が増え、毎日通う人もいるなど、地域住民の憩いの場、隠れ家的存在となっている。



店内の様子 (左上、右上)、  
若大将おすすめコーヒー  
(左下)

- ・場 所：生駒郡斑鳩町法隆寺 1-4-14
- ・営業時間：10:00～16:00
- ・T E L：0745-74-1515
- ・定 休 日：水曜

■「パンカフェあいておもしろい」

(代表者：川村 <sup>ともひろ</sup> 公洋氏)

5年程前から、古い佇まいを今に残す民家を奈良県内限定で探していたオーナーの川村公洋さん

は、条例制定により緩和されたこの地域で、新しい飲食店を開業した。

平成27年12月1日にオープンした同店は、自家製パンの販売とカフェを3人のスタッフで切り盛りする。モーニングやランチのメニューも充実しており、パンはイートインも可能。

オープンしてまだ間もないが、来店客は順調に推移し、リピーター客も増えてきているという。次のステップとして、「今は使っていない2階を活用し、規模を拡大させていきたい」と川村さんは熱く語っている。



外観 (左上)、店内の様子  
(右上)、ランチの一例 (左下)

- ・場 所：生駒郡斑鳩町法隆寺 2-9-10
- ・営業時間：9:00～16:00
- ・T E L：0745-75-9977
- ・定 休 日：火曜・第2水曜

■「まほろばステーション <sup>イカルコキ</sup> ikarucoki

(運営：斑鳩産業株式会社)

「まほろばステーション ikarucoki」は古民家を改修して平成28年1月23日にオープンした。斑鳩産業株式会社が運営する第2号店で、直営の「セレクトショップ」と気軽に店を出したい人を支援する「貸店舗」がある。

セレクトショップは伝統の染色技法を用いた手

ぬぐいや作家がデザインした広陵町製の靴下など奈良県のものにこだわった商品を販売。また、貸店舗は年契約の「オモヤ」(2区画)、月契約の「ハナレ」(2区画)、日契約の「ミニショップ」(3区画)と面積や契約期間の異なる3種類がある。現在、カフェ(オモヤ2区画)と手作りのアクセサリやバッグを販売する店(ハナレ)が入居している。



外観(左上)、セレクトショップ店内の様子(右下)、貸店舗利用の一例(左下)

- ・場 所：生駒郡斑鳩町法隆寺 2-1-25
- ・営業時間：10:00～17:00
- ・TEL：0745-44-9380
- ・定休日：木曜(祝日は営業)

### III 斑鳩町で行われている地域活性化のイベントなど

#### 1. 民間が主となる取り組み(含観光協会、商工会)

##### (1) いかるが WeeeeeK

規制緩和と並行してまちの活性化や観光イベントなど他の動きもみられるが、その中心となるの

が、「いかるが WeeeeeK ～いつもと違う斑鳩の1週間～」(以下、「いかるが WeeeeeK」)だ。

「いかるが WeeeeeK」は、これまで異なる主催者がそれぞれに開催していたイベントをまとめ、そこに新たなイベントを加えたもの。「観光客と地域住民が交流できる場をつくり、町のあらたな魅力発信に繋げよう」と斑鳩町役場、商工会、観光協会などで構成する、いかるが WeeeeeK 実行委員会が企画した。

県内の他の地域で行われているイベントの中には1～2週間続くものもある。そこで毎年11月23日に開催される常楽市と次の週末の竜田川紅葉祭りの間を他のイベントで繋ぎ、1週間(7日間)を通して開催するイベントに仕上げた。初めて開催された平成27年は11月23日(月)から29日(日)までの7日間で、のべ1万人の来場者があった。



7日間通して行うことでイベントの効果が高まり、斑鳩町に多くの人を呼び込むことができるとともに、共通のチラシを作成したり、スタッフジャンパーを共有したりすることによるコスト面での大きな削減も連続イベントのメリットである。「地域の活性化は地元の応援なくして成功はない。そこで、まずは地元の人に喜んでもらえるような連続した内容のイベントが必要だった」と実行委員

いかるが WeeeeeK 日程表

日	イベント名	会 場	主催者
11月23日(月)	常楽市 2015～まちあるきマーケット～	法隆寺門前周辺	東栄会
11月24日(火)	夜空から見る「いかるがの里」	法隆寺観光自動車駐車場	斑鳩町商工会観光委員会
11月25日(水)	法輪寺ライトアップ and コンサート 2015	法輪寺 特設ステージ	一般社団法人未来づくり斑鳩
11月26日(木)	わっしょい!!!! ～音あり、食あり、遊びあり なんでもありの秋祭り～	いかるがホール(小ホール)	奈良県立大学軽音楽部
11月27日(金)	光で繋ぐ法隆寺駅北口商店街	法隆寺駅北口前	法隆寺駅北口商店街
11月28日29日(土・日)	竜田川紅葉祭り	竜田公園	一般社団法人斑鳩町観光協会

会副会長の井上雅仁氏（斑鳩産業株式会社・代表取締役）は話す。なお、各日の内容は以下のとおり。

## ●<sup>しょうらくいち</sup>常楽市 2015 ～まちあるきマーケット～

「常楽市」は、法隆寺門前付近の「東栄会商店街」の空き家や空き地を活用して行う、商店街活性化のためのイベントである。

江戸時代末期まで現在の東栄会商店街エリアには「常楽寺」の門前市が存在していた。その市を復活させることで地域を盛り上げたいという思いから「東栄会」が主催して平成 25 年に始まり、カフェ、フード、雑貨、リラクゼーションやワークショップが出店。今回は西和警察署と連携してエリア内の歩行者天国を実施するなど内容の充実を図った。その甲斐あって 1 年目は 30 店舗の参加で来場者は約 2,000 人だったが、3 年目の平成 27 年は 81 店舗、5,000 人と規模が拡大した。



## ●夜空から見る「いかるがの里」

小学校など斑鳩町内 6 か所でのライトアップや光の仕掛けを気球に乗って上空 30m から楽しむイベントで、「斑鳩町商工会観光委員会」が主催する。30m は法隆寺五重塔やマンションの 10 階に匹敵する。この高さから夜の斑鳩の町を眺めることで、地元の子供をはじめ幅広い年代の人に感動を提供する。



フライトは有料（大人 1,000 円、中学生以下 500 円）にもかかわらず 400 枚の整理券は早々に完売するほどの人気。ただ、残念ながら当日は悪天候のため、フライトできない時間帯があった。

## ●法輪寺ライトアップ and コンサート 2015

—奏 KANADERU— ～和で奏でる秋の斑鳩～

法輪寺境内の野外特設ステージで行われるコンサートで、「一般社団法人未来づくり斑鳩」が主催する。ライトアップされた法輪寺三重塔が静寂の秋の夜空に浮かび上がるなか、バイオリン奏者などによる演奏が企画された。このイベントは、「音楽と文化財」をつなぐもので、斑鳩町にこれまでなかった新しい形である。ただ当日は雨天のため、コンサートは「喫茶 若大将」（前述）に併設する剣道の道場内で行われた。



## ●わっしょい!!!! ～音あり、食あり、遊びありなんでもありの秋まつり～

奈良県立大学軽音楽部が行うイベント。舞台ではライブやダンス、大道芸が繰り上げられたほか、食べ物の屋台やスタッフ手作りの縁日などがあり、音楽と食のコラボレーションによって子どもからお年寄りまでが楽しんだ。



## ●光で繋ぐ法隆寺駅北口商店街

JR 法隆寺駅前広場を光のイルミネーションで彩り、キラキラと輝くロマンチックな場所へと生まれ変わらせるイベント。法隆寺北口商店街が主催し、いかるが WeeeeeK 終了後も平成 28 年 2 月末まで続けられた。



## ● 竜田川<sup>もみじ</sup>紅葉祭り

一般社団法人斑鳩町観光協会が主催するイベント。古来から紅葉の名所として知られ、多くの歌にも詠まれている竜田川は、約2kmにわたる川のほとりが県立公園に指定されており、遊歩道沿いを散策しながら紅葉を愛でるのも一興。鯉逃がしの神事や約70店舗のフリーマーケット、お茶席も出店され、来場者はそれぞれのスタイルで紅葉祭りを楽しんだ。



### (2) 竜田揚げ上げ↑プロジェクト

「竜田揚げ」の由来は町内を流れる竜田川にあるといわれる。しかし意外にも地元斑鳩町民でもそのことを知らない人が多い。そこで、「竜田揚げを斑鳩町から発信することで、奈良県斑鳩町をさらに全国にPRしたい、地元の人たちにもっと斑鳩町を好きになってもらいたい」という思いから、斑鳩町商工会青年部の有志が集まり、平成25年に「竜田揚げ上げ↑プロジェクト」を立ち上げた。同プロジェクトは、

- ① イベントに参加し屋台販売を通じたPR活動を行うこと
  - ② 町内の飲食店で竜田揚げが食べられる仕組みを作ること
  - ③ おみやげやギフト用の商品を開発すること
- の3つの活動を行っている。なお、竜田揚げは右図のような3つの定義がある。

当初13店舗からスタートしたが、現在は、斑鳩町内だけでなく奈良市、大和郡山市、大阪市内にも広がり、24店舗に増えている。

商工会では「竜田揚げ食べ歩きマップ」を作り

「斑鳩名物竜田揚げ」には3つの定義が定められています

- 1 提供する際の商品名を「斑鳩名物竜田揚げ」とする  
※「斑鳩名物竜田揚げ丼」「斑鳩名物竜田揚げドッグ」など
- 2 提供する際、竜田揚げには本物のもみじの葉を添える
- 3 提供する際、「竜田揚げ」の名前の由来をお客様にご案内する

以上の条件を満たしたものが「斑鳩名物竜田揚げ」として提供されます

スタンプラリーも実施。斑鳩町で食事をすることで滞在時間を長くするとともに、そこからまちあるきに繋がりたいと考えている。

新たな展開として家庭で簡単に竜田揚げを作るための「漬込みだれ」(※)も完成、平成28年1月20日より販売されており、今後、斑鳩観光の新たな土産物として定着を図る。また、奈良県内資本のスーパーマーケットとの連携で、3月末より県内全店舗の惣菜コーナーで竜田揚げを販売。



※販売は、一般社団法人未来づくり斑鳩が行う。

### (3) アンテナショップの開設

JR 法隆寺駅北口に平成27年11月27日、常設のアンテナショップ「ファイブパゴダ」がオープンした。名称は法隆寺の象徴である五重塔の英語である「five-storied pagoda」からの造語で、斑鳩町商工会が運営する。

斑鳩町の特産品を中心に県全域から約20社の商品が並ぶほか、竜田揚げの販売も行う。今後、商品を見直し入れ替えながら増やしていくとともに、観光協会や商店街と連携した新たな展開も検討されている。





#### （４）おとなの修学旅行

おとなの修学旅行は、4年前に斑鳩町商工会が始めた事業。修学旅行で一度訪れた斑鳩町を大人になって再び訪れてもらう企画。写経、木魚体験など斑鳩を体験する17種類のプログラムを用意するほか、体験プログラムに町内での食事などを組み合わせ、充実した斑鳩町での1日を楽しむモデルプランも設定。



課題は情報をいかにして発信していくかであり、今後、役場の協力を得ながら首都圏等での商談会などに出向き、メディアや旅行エージェントへのPRを強力に推進し、商品化を進めていく。

#### （５）キャンペーンレディの公募

斑鳩町観光協会は「初代斑鳩町キャンペーンレディ」を公募（条件：奈良県に在住、在勤、在学する者）。選ばれたのは松井優花さん（左）と吉川奈央さん（右）でいずれも斑鳩町在住。平成26年7月の就任以来、商談会、物産展への参加やイベントの司会などをこなし、斑鳩町のPRに一役買っている。



来年度、斑鳩町役場では海外への観光プロモーションを展開する予定で、キャンペーンレディが活躍する場が増えそうだ（7月以降は第2代が就任の予定）。

## 2. 斑鳩町役場が主となる取り組み

### （１）斑鳩町役場のスタンス

主体となるのはあくまでも民であり、官（役場）

は側面からのサポートが中心である。なぜなら、行政主導のイベントは民間に達成感がなく、行政の自己満足に終わっているケースが多いからで、民間の団体に自立性、成長性、継続性を持って実施してもらい、役場は補完的な役割を担うことを心がけている。例えば、役場では景観を維持するための建物等の修景整備やいかるがWeeeeeKなどの実施に補助金を出すなどの援助を行っている。

### （２）スマートフォンアプリケーションの開発等

斑鳩町役場では、町内の名所など斑鳩町の魅力を観光客に知ってもらい町内への来訪を促すため、スマートフォンアプリケーション「<sup>あい</sup>Iー斑鳩町観光・防災ナビ」を開発し、平成26年4月1日よりダウンロードを開始した。このアプリケーションは、シミュレーションゲームを楽しみながら観光地の情報を得ることができるほか、町内の避難所情報や災害への備えなど「いざ」という時の情報提供を行う。観光情報と防災情報をひとつのアプリで提供するのは全国的にも珍しい取り組み。

第二弾として平成27年8月29日からは、実写立体視VR（バーチャルリアリティ）「周 Youー斑鳩・奈良 観光VRー」の提供も始めた。7つのテーマに基づいて斑鳩町と奈良市をVRで周遊することができる。

また、今のところインバウンドはさほど増えていないが、今後に向けた対策を進めており、平成28年1月16日にJR法隆寺駅と法隆寺iセンター（斑鳩の里観光案内所）にWi-Fiの環境が整備された。

\*アプリの問い合わせ先：斑鳩町都市建設部観光産業課

## IV まとめ

### 1. 観光による地域の活性化には

観光による地域の活性化には、ステークホルダーである地域住民、行政、観光資源、来訪者（観光

客)の4つの要素が重要であり、これらをうまく調和させることが必要である。ただ、地域ごとに特性があり観光資源も異なるうえに、様々なステークホルダーが関与するため、合意に時間がかかるのが一般的である。そういった環境の中で地域活性化を進めていくためには、強いリーダーシップを発揮して地域を引っ張っていく人が必要である。他地域での成功事例をみても、多くの地域でリーダーとなる人物が欠かせない存在となっている。

リーダーの条件としては、地域に大きく関わっている人が望まれ、その地域出身者であれば理想的である。また、リーダーひとりだけでは限界があるため、サポートする人材も必要である。

## 2. 斑鳩町での取り組みの評価

今回取り上げた斑鳩町は、地元の若い人たちが中心となり、互いに協力しながら精力的に活動している。また、まちづくりに関わる人に共通しているのは、「地域を良くしたいという強い思い」を持っているということである。そして、まちづくりの取り組みを、民間が中心となって行っていることもポイントである。

リーダーとなるのが斑鳩産業株式会社の井上雅仁社長。地元出身の井上氏は地域の資源を再認識したうえで、地域でのイベントや飲食店の出店などの活動を通して地域の活性化に積極的に取り組んでいる。また、井上氏だけでなく各種イベントの主催などで関わってきた商工会青年部等の人たちの功績も大きいといえるだろう。

これまでの実績をみると、例えば、常楽市や飲食店の出店は地域の消費拡大に加え、空き家対策にも効果的だ。また、夜空に気球を飛ばすなど夜のイベントは、観光客の滞在時間を伸ばし、消費の拡大に有効な仕掛けで、ひいては、宿泊客の増加

にも繋がる。さらには、地元の人が楽しめ、そして地元の人からの賛同を得るイベントを企画している点も評価できる。地元の小中学生が、ひとつのイベントを通じて「観光」を学ぶことで地域の観光資源を知り、地元の愛着度を高めることにもなる。

## 3. 今後に向けての課題と展望

課題としては、イベントへの参加者や飲食店への来訪者は斑鳩町内や近隣地域の人が多く、遠くからの観光客はまだ少ないことがあげられる。また、滞在時間を伸ばすために必要なファクターである宿泊施設も斑鳩町および周辺には決して多くない。

ただ、斑鳩町の取り組みは緒に就いたばかり。幸い、中心となるスタッフは若く、かつ行動的、建設的な人材が揃っているうえに行政等の関係機関の理解もある。

さらに追い風となるのが、平成28年11月22・23日に開催する「全国門前町サミット」である。今年も秋に「いかるがWeeeeeK」が開催されるが、同じ時期に同サミットが斑鳩町で開催されることが決定しており、相乗効果により来訪客の増加や認知度の向上が期待できる。

斑鳩町役場では、民間のこうした取り組みにより「各種イベントの認知度向上」や「宿泊施設など観光関連産業の集積」を強力に推進することで、雇用の確保を通じた定住人口の増加という次のステップを展望している。

これまでみてきたように斑鳩町の地域活性化は着実に進化している。今後もイベント開催や飲食店等の出店などを通じて、「住んでよし」「訪れてよし」のまちづくり形成へさらなる歩みが続いていくといえよう。

(丸尾尚史)